

*「ポレーシェ」とは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



ポレーシェ

「2008 菜の花スタディツアー」開催!!



<前回のスタディツアー「ジトミル市第25番学校」にて>

価格高騰が懸念されていた「フィンランド航空運賃」は、170,000円/人に決まり、渡航費とウクライナ滞在費の総計は、昨年並みの258,000円/人になりましたが、原油高の影響で燃油チャージが加算され、空港税・空港利用料と合わせると、40,000円(3/18のレート見積り)の追加が必要です。

従って、参加費は、**総額 298,000円!**

なんとか30万円以内におさえました。

ユーラシア東海の大野さんに助言をいただきながら、今回のスタツアがこの価格で実現できるよう、気を引き締めて準備していきます。

このツアーの募集人員は15~20名を予定し、申込みの締切日は**5月26日**です。

今回のスタツアの最大の目的は、「菜の花プロジェクトの進捗状況を皆さんの目で確かめていただく」ことです。菜の花の性質を生かして、汚染されたナロジチの土壌から放射能を取り除けば、休耕地が豊かな農地に生まれ変わり、農業が復活します。もちろん、内部被曝の根源を断ち、ナロジチの子ども達の健康を取り戻すことができる可能性が高まります。

訪問時期は、黄色い花が咲きほころぶ6月下旬を選びました。身近な菜の花が、土壌からたくましく放射能を吸い上げる姿を見ることができるでしょう。**汚染によって死んでしまった…と言われた土地が復活していく、その歴史的瞬間に立ち会ってみませんか?**

さあ皆さん! 「参加申し込み書」を請求し、記入をしたら事務所まで返信してくださいね。(美)

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町137 1-10
 チェルノブイリ救援・中部 代表:小牧 崇
 郵便振替:00880-7-108610
 TEL/FAX:052-836-1073 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)
 ホームページ: <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

2008 菜の花 スタディツアー 日程表



1. 日程: 6月26日(木)~7月5日(土)10日間

日目	日付	時間	内容	滞在地
1	6/26(木)	08:35 11:00 15:10	中部国際空港 集合 中部国際空港発 ハルツキ着	ハルツキ
2	6/27(金)	午前 16:40 18:40	市内観光「世界遺産オマリツキ要塞」や「マーケット広場」など ハルツキ発 キヲ着 ズト-ミルへ移動、夕刻着	ズト-ミル
3	6/28(土)	終日	キステ-ツ 基金・農大・消防署などを訪問	ズト-ミル
4	6/29(日)	朝出発	カヅチ地区へ(菜の花畑・BDF&BG 設置場所の見学) その後、ユ-ラストへ	ユ-ラスト
5	6/30(月)	終日	30キ-圏内見学(チェルノブイリ原発&フ-ルヒヤチ)	ユ-ラスト
6	7/01(火)	午前 午後	廃墟(教会など)を視察 ズト-ミルへ移動	ズト-ミル
7	7/02(水)	朝出発 午後	キヲへ移動 キヲ市内観光「チェルノブイリ博物館」「聖ソフィヤ教会」	キヲ
8	7/03(木)	13:55 15:55	キヲ発 ハルツキ着	ハルツキ
9	7/04(金)	午前 17:15	市内観光「ハルツキ大聖堂」や「ウスルソフキ-教会」など ハルツキ発	機中泊
10	7/05(土)	08:55	中部国際空港着 解散	

2. 申込み方法:

電話またはファクスで「参加申し込み書」をご請求ください。

用紙にご記入の上、「パスポートのコピー」とともに、救援・中部事務所(下記の郵送先住所)まで郵送をお願いします。

参加申し込みの締め切りは、5月26日です。



< 郵送先・連絡先 >

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園 137 1-10

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部 行

(052) 836-1073 (月・水・金 10:00~17:00)

*封筒の表面に「スタツア申込書在中」とお書きください。

「初めてだ、ウクライナは！」

「ナロジチで新しい人に出会って、もう一働き！」 事務所前に整備された 12 台の中古自転車と、新品の作業服（ズボン 78 着・ブルゾン 25 着・シャツ 29 着）。3 月 17 日午前 10 時、トラックに積み込まれ、名古屋港金城埠頭近くの海運会社の倉庫へ…。いよいよ出発です。06 年 9 月から始まった「菜の花プロジェクト」の山場、バイオディーゼル燃料（BDF）製造装置と関連援助品を、ナロジチへ送る時がやって来ました。07 年の春蒔きは順調に収穫され、秋蒔きもそろそろ収穫期。そして、今年の春蒔きもう直ぐ始まり、本来の目的である土壌浄化の実証研究も、「国立ジトーミル農業生態学大学（当プロジェクトの共同研究パートナー）」で本格的に始まりました。今年も、収穫された種子から搾った油を用いて、バイオディーゼル燃料を生産し、残った油粕とバイオマスで、バイオガス（BG）の生産へと歩を進める、新しい局面を迎えます。

BDF 製造装置（MSD 社製：BDK-2 型）と**関連部品**、**ディーゼル発電機**・**バイオマス用チップ**（菜種の茎等を細かく裁断する機械）・**脱硫装置**（バイオガス製造時硫化水素を除去する装置）、**中古自転車**（ナロジチ地区の 12 診療所に配置）・**上下作業服**（当プロジェクト農作業・BDF、バイオガス作業・その他現地で必要とする作業で使用）の輸送品が、各地から 3 月 19 日迄に海運会社倉庫に勢揃いしました。書類上の諸手続きも完了し、21 日に積み込み荷物の最終確認、24 日に通関検査も終了。20 フィートコンテナに積み込まれ、27 日に出航しました。5 月 2 日に、オデッサ港（ウクライナ）到着予定です。ウクライナ国の通関に約 40 日程度要し、ナロジチ現地への最終到着は、6 月 20 日頃と予想されます。その間に、BDF 装置設置場所の環境整備（水道敷設・電気配線・土間の内装工事）を完了し、それと同時に、建築申請が遅れているバイオガス装置のスケジュールを加速しなければなりません。

6 月下旬、BDF 装置の設置・始動前点検・訓練を行い、スタディーツアー参加者とともに「火入れ式」。さあ！本格稼働です。（神谷）

「半襟展&チェルノブイリ絵画展」のご案内

チェルノブイリ救援一宮・つぼみを守る会

額装した半襟や絵画は、十点程しか展示できませんが、二百点近い半襟は、ランチタイム（11 時～14 時）以外の空いている時なら、ゆっくりと見ていただくことができます。

ローレン・モレさんが、「ビューティフル！」「アメイジング！」「アンビリバーブル！」「ファンタスティック！」「何て繊細なの！」を連発して楽しまれたコレクションです。

ぜひお運びください。半襟の説明などをお聞きになりたい方は、あらかじめご連絡ください。

「ちゃん家」のワンボックスレンタルスペースでは、藍をあしらったコースター・エプロン・帽子・ウクライナの刺しゅう作品などを販売しています。

4 月 12 日の「名古屋国際センターでのイベント」にも、手作り小物を出展いたします。

半襟展示	4 月 1 日より 19 日迄
絵画展	4 月 22 日より 30 日迄
会場	「ちゃん家（け）」 本町アーケード一宮市本町二丁目 4-37 市役所西庁舎北側 （一宮駅を JR 側に出て徒歩 5 分）

お問い合わせ（0586）46-0263 中島しぐれ

菜の花通信

親愛なる日本の友人の皆さん！

女性の祝日〔国際婦人デー〕3月8日に先立って、慈善基金「チェルノブイリの人質たち」のキリチャンスキーさんと、「チェルノブイリの消防士たち」のチュマクさんが、ナロジチに来てくださいました。私たちの幼稚園に「身長計と体重計」を、そして、消防署と無条件移住区域土地管理ステーションには、「放射線検知器」を持ってきていただいたのです。

皆さんに心から感謝申し上げます。というのも、それらは「サレジオ小学校」と「チェルノブイリ救援・中部」のお金で入手されたのですから。私たちは一緒に、地区議会議長レオンチュクさんのところに行って、地区の問題について話し合いました。例えば、私たちの幼稚園では、9月に年長組が学校に上がった後の入園を希望している人が、40人もおり、規模の拡張がどうしても必要なのです。

「救援・中部」の代表団の皆さんは、幼稚園の隣にある（今は使われていない）建物をごらんになったと思います。そこに、追加のクラスを入れることもできるのですが、そのためには建物の全面的な改修をしなければなりません。その経費は30万グリヴナ（約600万円）です。レオンチュク議長は、すでにこの件で「青年・家庭・スポーツ省」に陳情に行きました。現在、同省大臣は、前シトミル州行政長のパヴレンコ氏です。大臣はもちろん善処すると約束しましたが、今、同省の予算が、2012年にウクライナとポーランドで開かれる「ヨーロッパサッカー選手権大会」の準備に使われていることを、私たちは知っています。

私たちは、バイオディーゼル燃料製造装置を含む、人道支援の船便貨物が送られてくることについても、いろいろと話し合いました。ナタネ栽培と土壌浄化が実験的に行われていて、本格的な生産が始まるまでの間は、装置はほとんど使われず、そこにあるだけということになるのではないのでしょうか。私たちの地区で、やはりナタネを栽培しているドイツ人たちは、ドイツの工場で加工するために種子を持って行ってしまいます。ですから、今その装置にお金を使うということはもったいないという気がします。将来的には、ナタネ栽培とバイオ燃料生産はすばらしいものだと思いますが、今はまだその段階ではないでしょう。

私は間違っているかもしれませんが、このように考えているのは私だけではありません。

率直に申し上げたことについて、お気を悪くされなければと願っています。

皆様に対する敬意を込めて
「お陽さま」幼稚園園長 テチャナ・クラフチェンコ

* 菜の花通信 * (返信)

テチャナ・クラフチェンコ様

お便りありがとうございます。

「お陽さま」幼稚園と日本の皆さんとの交流が深まりつつある事を、とても嬉しく思います。これからも、末永くお付き合いをお願いいたします。皆さまの生活が少しでも改善され、心豊かに暮らしていけるようになることを願っています。

さて、私達の「菜の花プロジェクト」にも、素直なご意見をいただきありがとうございます。今、自由に使うことのできるお金が充分あれば、私達も応援したいことは山のようにあります。たくさん子ども達が、貴幼稚園への入園を待ち望んでいる事を聞き、もちろん私達の心は痛みます。

しかし、「限られた予算で、最も効果的な支援を行なうために、今何をすればよいのか」…この点で、さまざまな意見がある事は充分承知した上で、私達は、この「菜の花プロジェクト」の将来の夢を、皆さんに語りかけたいのです。皆さんが、幼稚園の拡充を行政に訴えかけているのと同様、私達は、放射能で汚染されてしまった大地をよみがえらせる活動を、日本の皆さんに必死になって語りかけています。

私達は、このプロジェクトを「夢物語」で終わらせてしまうことはしません。どうか、ほんの少し長い目で見、あなた方の子ども達が、将来にわたり健康に暮らす事のできる環境を取り戻すため、力を貸してください。そして、ナロジチの町で、このプロジェクトの応援団となってください。BDF・BGの実験装置は、今こそ必要なのです。

(「救援・中部」神野英樹)

※読者の皆さまに、ナロジチの人々へのお便りを募集します!! 話題は、自分の家族や日常生活について、ナロジチの人へのメッセージなど、何でも結構です。(編集部)

菜の花便り その6

私がアルバイトへ行く田舎道には、そこかしこに菜の花が満開です。晴れた日には青空とのコントラストが爽やかで、気分を軽くしてくれます。以前なら、菜の花に種類があることなど気にもしなかったのに、あれは「アブラ菜」、これは「からし菜」と、自分のお花畑にいるようです。そして、もう一つのアルバイト先「救援・中部」へ向かう道には、人・人・人。疲れた人でいっぱいです。それもあとちょっとで終わってしまうのですが…。

先日、ラジオで「LIFEWORLD」について話していました。辞書で引けば、[一生の事業・仕事]とあります。話の中では、生活費を稼ぐ仕事以外に、社会に貢献する仕事として捉えていました。いかにも西洋、特にボランティアに重きを置くアメリカ的発想です。今の日本では、「自分の生活で手一杯、人のことまではちょっと…」というのが素直なところでしょう。かく言う私も、ボランティアと言うよりも、そこに関わる人たちが魅力的で、つつい、できもしない会計まで引き受けたのです。そして、そこで改めて感じたことは、《いわゆる普通》にしていれば社会的地位が得られたらうし、サロンとしてボランティアができたであろう人たちが、妥協することなく、信念をもって救援を諦めない強い意思。18年間続いている彼らにとっての「LIFEWORLD」です。菜の花プロジェクトは、5年計画の1年目がやっと終わったところ。

ナロジチ再生を賭け、「救援・中部」の東奔西走は続きます。

(榎本)

特集!! 2月視察報告

二歩前進一歩後退…かな?

伊那市 小牧崇

2月上旬、この時期としてはずいぶん暖かいウクライナに行ってきました。2日の夕方にジトームル入りし、9日の朝出発したので、正味6日間の滞在です。当初、4日間は現地ナロジチに張り付く予定でしたが、結局、ジトームルでホステージ基金との打ち合わせに1日、農業大で2日費やし、ナロジチは2日間滞在しました。建設予定地の土地管理ステーション・実験畑・行政庁、さらに資材店の下見にオブルチまで足を伸ばして、ほぼ工事の目処も立てました。最終日、ジトームルに戻り「認可申請」を進める段階で、足止めを食らってしまいました…。

一方、農業大のディードゥフさんからは最終日に、「ボレーシェ地方の農業の歴史を踏まえた時、外国資本によるナタネの単作農業（モノカルチャー）ではなく、複合経営が基本でなくてははいけない。あなた方の小規模BDF・BG装置は、本来のウクライナ農業に適合している。あなた方のプロジェクトを支持する」と熱烈なエールをいただきました。今回の訪問が一定の成果を上げられた裏に、このディードゥフさんの全面的な協力があつたと思います。

ナタネ栽培実験の結果や、いよいよ始まる工事については、河田さん・原さんから詳しい報告があると思います。以下、私の個人的印象記です。

グローバル化…ボリスポリ空港に向かう途中、キエフ市内で大渋滞に巻き込まれてしまいました。おかげで周囲をのろのろと走る車を観察できたのですが…独・仏・伊・米などなど、世界中の車が走っています。もちろん、三菱・トヨタ・マツダ・日産・スズキといった日本車も。潜在的にはともかく、現状ではそう魅力的な市場とも思われぬウクライナなのに、行くたび外国製品が増えている。ジトームルの資材店には、マキタ・ホンダの日本製電動工具などがあふれていますし、オブルチでさえ、外国製の建設資材が山ほどあって、原さんを喜ばせました。ナロジチでは半世紀前状態の便所が普通なのに、ピカピカ最新鋭のトイレ用品が並んでいます。そう、お金さえあれば何でも揃うのです。昨年秋、「独企業によって、ナロジチの2千haを超す農地にナタネが蒔かれた」と聞き、今ひとつピンとこなかったのですが、今回その畑を実際に見て、「とりあえず（短期的に）儲かると見込めば、どんなところへも資本は進出するのだ」という事実思い至りました。

地産地消…「独企業は、連作障害について考えていない」「我々の取り組みは長期的なものだが、彼らの場合3年で撤退もあり得る」「外国資本が入れば、土地が疲弊する危険がある」「エコノミーだけでなく、エコロジー的にも最適なモデルを、私たちがつくるのが大切」…いずれも、ディードゥフさんの発言から拾いました。これを受けて、「これからは地産地消です」と河田さんは答えました。「地産地消」は、グローバル化の波に洗われ青息吐息の日本農業の課題です。思わぬかたちで、ウクライナと日本の課題が重なってきました。初夏には、ナロジチの大地を菜の花の黄が染めるでしょう。圧倒的に独企業の畑の…。しかし、ナロジチ住民にとって何がプラスとなるか。見極めなくてははいけません。

ナロジチを立つ日の朝…原さんと、2泊した病院の周辺を散歩しました。霧が出て、川辺はとても幻想的。本流は凍結していませんが、堤防近くは凍り付いていて、穴釣りを楽しむ男がいました。帰りかけ、自家用車が我々の横をゆっくり通り過ぎてゆきます。その車が突然止まって、大男が出てきました。何か怒られるのか…と身構えたら、「ハラサン！」と満面の笑みを浮かべて彼が駆け寄ってきます。10年前、病院工事で原さんが長期逗留した時の知人でした。こうした現地の人たちとの交流をさらに深めていくこと、そして現地の人たちの理解を得られるかどうか、このプロジェクトの成否はかかっていると思います。



<ナロジチの朝(10年ぶりの再会)>

道なお陰しバイオガス 原 富男

2月に、再度ナロジチ地区を訪問した。今回の私の役割は、バイオガス(BG)とバイオディーゼル燃料(BDF)の各製造装置設置の、最終打ち合わせである。設置場所に指定された建物は、非常事態省の土地管理センターで、ここの仕事は、汚染地域の森林や農地、廃墟となった住宅の管理である。作業に必要な重機や建設機械が置かれ、修理工場もある広い敷地のはずれに、40坪ほどの倉庫があった。これが、今回紹介された設置場所だ。40坪を半分に仕切ったスペースに、バイオディーゼル燃料の製造装置と搾油機、搾油後の油が置かれ、製造されたBDFも保管することになる。間仕切りはするものの、20坪にバイオガス関係の資材も同居するとすると狭い気もするが、天井が高いため、空間を上手に使えばなんとかなりそうである。BDFは、装置がコンパクトなので許認可に難しいことはなさそうだ。強いて言えば、搾油に問題がある。日本の搾油と違い、焙煎の工程を省くウクライナの搾油では、ガム質や不純物が取り除かれない可能性があり、対策が必要となるだろう。



バイオガスの施設は外部の地下に設置するつもりだが、ここに問題があった。技術的に施工することはできるけれど、問題は許認可だ。認可申請を代行する会社によれば、まず、建物内にナタネバイオマスの醗酵を促進する目的の牛糞を置くことができない。水を供給するための井戸が近くにあり、井戸と牛糞を使うバイオガス装置が近いと、「衛生上の理由」で許可が下りないということが分かった。僕は、施工に当たって一番の問題は資材だと思っていたのだが、資材はナロジチから30分ほどのオブルチという町で、楽に調達できることが分かった。

問題は認可だ！ 許認可の難しさを思わなかったわけではないが、ウクライナでは、関係機関の認可を得たバイオガス装置の施工例がないのだ。日本でも大きなプラントでない限り、許可を得た施設は少ない。バイオガス施設自体が少なく、経験がないため、認可申請代行業者も二の足を踏んでいる状態だ。認可を早くするには、教育上の実験施設として農業大学とタイアップして申請すれば…などというアドバイスもあるが、模索中である。

先にも書いたが、牛糞をバイオガスに使えないことも大問題だ。衛生上の問題に加え、牛糞が日本のように安くないのだ。だから、「牛糞なし」でバイオガスを稼働させなければならなくなってしまった。ナタネバイオマスは、リグニンを含むため醗酵しづらいので、牛糞を醗酵促進に



使うつもりが、使えなくなってしまった。しかし、頭を抱える僕に河田さんは、牛糞がなくてもナタネの油粕を牛糞の代わりに使うことでも醗酵できると言う。

帰国後の河田さんの計算によれば、1日120kg投入予定の牛糞の代わりに、ナタネ油粕17kgで代替できることになる。さすが化学者だ！ これがうまくゆけば、牛糞でまさに「ふんきゅう」している許認可問題を、突破できるかもしれない。

そうなれば、衛生問題や価格面で壁にぶち当たり、別棟に隔離されようとしていたバイオガス施設も、日の目を見ることになり、BDFと一緒に、当初の予定通り同じ建物で同居できることになる。

因みに、バイオガスの追加書類は、3月20日現地に送信した。認可が早くおりるよう、全力をつくしたい。

一歩進んだ菜の花プロジェクト

汚染地域再生の期待を背負って、ナロジチ再生・菜の花プロジェクトは一歩を踏み出した。ナロジチに初めて咲いた菜の花は、私たちに様々な発見や未来への課題をもたらしてくれる。播種から一年経った今、得られた成果の一部を要約して紹介する。

● 菜の花栽培で分かったこと

2月訪問では、農業生態学大学のディードフ教授やスタッフと、これまでに得られた様々な分析結果について2日間討論した。栽培条件の違いによる、ナタネの種子・バイオマス・土壌などの成分分析や放射能分析データは、膨大な量にのぼる。植物による放射能の土壌浄化について、これほど体系的な調査は過去に例がない。その中には、理論どおり証明されたものもあれば、思いがけない結果もある。ただし、昨年度のナロジチは、例年と比べて雨が少なく、気温が高かった（気象データ有り）、得られたデータが一般化できるかどうかは、今後さらに調査を続けなければならない…ということで意見は一致した。

◎ 収量を上げるには、やはり肥料が必要

無肥料区、窒素(N) 燐酸(P) カリ(K) +石灰(Ca)の完全肥料区、N+P、N+K、Nのみという5種類の肥料条件で栽培されたが、結果は、無肥料区に比べて種子は完全肥料区が(1.4倍:1.76t/ha)、バイオマスはN区が(1.7倍:2.87t/ha)の収穫があった。ナタネ油の収量でも、完全肥料区が最も大きかった(1.6倍)。

◎ 放射能の種類で吸収部位は異なる

	根	茎	さや	種子
Cs137	190	121.9	148.8	570.
Sr90	197	289	220.7	153

完全肥料区の平均値。単位:ベクレル/Kg

この表から、「Cs137は種子に多く、Sr90は種子以外のバイオマス部分に多い」ことが分かる。除去効率を考えれば、Cs137を優先すれば種子を、Sr90を優先すればバイオマスの収量を上げるような肥料条件を選ぶ必要があるが、これらのデータは種子の実る時期の降雨

量にもよる。

◎ ナタネ油には放射能が入らない

この結果は予想通りであり、菜種油を使ってバイオディーゼル油を作っても安全である。

Cs137	Sr90
<7.0	<7.3

【単位:ベクレル/Kg(ナタネ油); < …検出限界以下】
種子中の放射能は、殆どが種子の重量の約40%を占める油粕に濃縮され、油粕を利用してバイオガスを製造する段階で、污泥に移行して濃縮されることになる。

◎ 放射能によって違う蓄積係数

今回始めて明らかになったことの1つは、「ナタネによる蓄積係数が、放射能の種類と植物の部位によって違う」ことである。蓄積係数とは、各放射能の植物体中濃度(Bq/Kg)と、土壌中の濃度(Bq/Kg)の比である。下表によれば、種子ではCs137が土壌の2倍に、バイオマスではSr90が土壌の2.12倍に、濃縮されることがわかる。

	土壌中濃度 (Bq/Kg)	放射能の蓄積係数(*)	
		種子	バイオマス (平均)
Cs137	462	2.0	0.54
Sr90	113	1.37	2.12

(*)種子・バイオマス中濃度/土壌中濃度

土壌中濃度は0~40cmの平均値

但し、土壌中濃度は、各肥料区でばらつきが大きく、正確な数値はさらに検討を要する。

● 課題も残った

播種前の土壌放射能の測定を、地表から10cm単位で測定したが、播種の際に耕したため、収穫後の土壌濃度との比較が困難になった。2年目は工夫が必要である。(河田)

N たま研修生

柔らかな日差しに春の訪れを感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。こんにちは、田口雄一です。9月からの約半年間、インターンをやらせていただき、ウクライナで今も被曝に苦しんでいる人々がいることを知りました。キャンペーン活動では、自分の可能性を拓ける機会を得ることができました。活動に関わりながら、伝えたいことを伝えることの難しさを、そして伝えたいことを明確にすることの大切さを、学びました。また、与えるという行為は、受け取ってもらう相手がいて成立するのだと、カードキャンペーンを通してわかりました。今回、返事がウクライナから多く送られてきました。それは予想しなかった反応でした。驚きであり、喜びでした。それら一つひとつに、温かさを感じました。お金では絶対に換えない愛を、そこに感じました。大切な感情や思いは、こうしてウクライナと日本の距離を近づけてくれるのだと、そう感じました。また、自分の世界が広がっていくのがわかりました。

私には、知らないこと・できないことは、数限りなくあります。しかし、できることもあります。この研修を通して、知らないことをただ知り続けるのではなく、「知ったことを、まずは自分のできることから実行していこう」と思えるようになりました。

以前は、結果をすぐに求めるから、第一歩に慎重になってしまう自分がいました。しかし、それは自分が何をしたいのかが明確でなかったからだ、今振り返ってみて思います。今回の研修を得て、「結果に対する判断は、次に活かすために自分でするものだ」と気づき始めました。すると、失敗であるとか、成功であるとかいう概念が消えていきました。

私は、4月からは就職します。しかし、「チェルノブイリ救援・中部」とは、これまでとは異なる形になりますが、関わっていきたいと思います。皆様のおかげで多くのことを学び、成長できました。本当にありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願いします。(田口雄一)

* * * * *

今年度のクリスマスカード・キャンペーンでも、研修生の人たちが活躍してくれました。皆さんのカードはウクライナの市民や子ども達に届き、お礼の手紙が2月訪問団に言付けられて来ました。

ジトミル州イルシャンスクの美術教育センターの生徒と先生からの手紙の一部をご紹介します。

★親愛なる日本の友人！

私たち、イルシャンスクの美術教育センターのグループメンバーは、あなた方のクリスマスカードに厚くお礼申し上げます。日本の子ども達からのウクライナ語のお祝いの言葉を読むことは私たちにとって、嬉しいものでした。

私たちは、チェルノブイリ原発事故被災者に同情して、私達の問題に取り組んでくださるあなた方に感謝します。あなたがたの手作りの挨拶状を受け取って、まるで遠く離れた（同時に私達にとって近くなった）日本を訪れたようです。

私たちとあなたたちと、これからずっと文通を続ける友人であること、もっとあなた方の素敵な国について知ることができるようにと願います。 イルシャンスク村 美術教育センター教師より

★こんにちは！

カテリーナ・サバンチュークが手紙を書いています。私はウクライナのバルヴィスチー地区に住んでいます。私はB-bクラスで勉強しています。自由な時間に編み物をしたり、ダンスの練習に行ったり、人形劇のクラブへ行くのが好きです。（後略）

★お友達の皆さん、こんにちは！

ウクライナのハンナ・トカチューク、10歳の女の子です。（中略）ここにはイルシャ川が流れています。家には犬のエリザとカラムがいます。私にはたくさん友達がいて、一番仲良しはクシューシャです。日本はどんなだろうかと興味があります。日本へとても行ってみたいです。

竹内さんのウクライナ便り

2月、ほとんど雪もなく、当地としてはごく暖かく推移した気候のあとで、3月に入ってからプラス10℃を切る気温が続き、下旬には何度か雪が降りました。26日にはみぞれがかなり激しく降り注ぎ、私はたまたま山口県宇部市のチェルノブイリ救援団体の方々の通訳で、彼らが一昨年チャリティ・コンサート・ツアーに招聘した児童合唱団が所属するキエフ市内の音楽学校(課外に通う、有料の施設)に行き、お茶を飲みながら子どもたちの歌を聴いていたのですが、窓の外で横なぐりに降りしきる雪を背にして歌う女の子たちのウクライナ民謡やジャズ・ナンバーは、なかなか、印象に残るものでした。そのあと車で都心に送っていただき、日本の方々とおペラ・バレエ劇場で「くるみ割り人形」を観たのですが、その舞台でも雪は音もなく(当たり前ですが)降りしきっていました。そういう、時を超越したかのような世界とは別個に政界は激動しており、この間の政治・経済関連ニュースのあれこれを詳しく解説している紙面の余裕はとてありません。機会があれば、ロシア語通訳協会(私は会員ではないのですが)のホームページに掲載の拙文 <http://www.h6.dion.ne.jp/~apr/ukraina-tsusin40.html> をどうぞご参照下さい。

ティモシェンコ首相の就任100日ということで、マスコミはさまざまな評価をしており、賛否両論があるのは当然ですが、2月時点で昨年同期に比べ消費者物価が20%上昇というインフレーションが最大の問題であるのに対し、ソ連時代の国営貯金銀行の預金が、ソ連崩壊後の貨幣価値の下落で凍結され事実上消滅していたものの一部(200ドル程度までの制限つきですが)を払い戻す、密輸の取締りや付加価値税払戻しの査察強化による国庫収入の増加、ロシアからのガス供給について、持株会社が外国籍のため国に税金を全く納めないという不透明極まりない仲介会社を排除する方針を打ち出す、などの政策は一定



の評価を得ています。しかし、徴兵制度を廃止し契約制度を導入すると同首相の最高会議選挙時の公約は実現されず、08年度の徴兵も行われることになりました。主な理由は国防予算の不足です。空軍の視察で3月28日戦闘機に搭乗したユシェンコ大統領は、ティモシェンコ氏の就任100日に関するコメントを求められ、「100日は何らかの総括をするには短すぎる期日だ」と答えをはぐらかしていましたが、大統領と首相の関係のきしみが続いていることは公然の事実です。与野党伯仲の最高会議で、NATO加入の是非をめぐって野党による議長席占拠のため議事空転が数週間も続き、それがやっと収めたかと思えば、市有地の不当処分疑惑を受けているキエフ市長のリコール決議が最高会議によって行われ、また東部の州都ハリコフの市長が公金横領疑惑で取り調べを受けています。このような政情混乱のあおりを受け、キエフ市内のチェルノブイリ被災者が多数在住する地区でも、被災者のため法律で規定されている一定の医薬品無償提供予算が病院に支給されない状態が何ヶ月も続いているということです。公営病院(が未だに医療施設の大部分を占め、特に地方では私営の施設はごく少ない)の職員の給料が安いと、医師の数も不足しており、地区小児外来病院では医師一人が規定の1.5倍から2倍の勤務をこなしているという話も聞きました。看護師の給与などは最低賃金額(100ドル未満)に近いのではないのでしょうか。市立小児病院のセクション長でも、家計を支えるため、私営のクリニック数ヶ所でアルバイトをせざるを得ない状況だそうです。(3月28日)

事務局便り

3月27日、名古屋港から現地へ向け、「ナロジチに希望を！」満載の貨物船が出港した。菜の花プロの本番第一弾（クライマックス？）の出港である。バイオディーゼル装置・発電機・バイオガス関連装置2機・修理済み中古自動車12台・新品作業着ダンボール4箱を混載して。また、修理済み中古自動車12台はナロジチ地区診療所の往診用に、また、新品作業着は菜の花栽培や放射能測定作業、BDF装置設置工事・BG装置建設工事などのために使用する。これら、自転車と作業着はアルシュ（自立を支援する会）から提供されたものである。特に自転車は輸送費の一部にこのことで、カンパもいただいている。この3月、事務局は時折「自転車整備工場」と化し、チェル救「技あり部隊」の河田さん、神谷さん、池田さん、そして、半年の研修を終え「卒業」していった「やりて」研修生らがせっせと整備作業に励み、自転車はみごとに変身を遂げた。また、作業着もズボン78枚・シャツ29枚・ブルゾン25枚あり、「会計助っ人」兼事務所整理整頓班・榎本さんが河田さんとともに梱包し、事務局は「船出し」モードとなっていた。船便出港まではなかなか気が抜けない。「輸出業務」を長年担当している河田さんは、ベテランといえども、出航まで何か起きるかわからない事態に備える。難関は「通関」。やっとこぎつけてほっとするのもつかの間、ぎりぎりのところで税関からのクレームが出たり…と、気の抜けない時を過ごすことになる。しかし、それを毎回確実に突破し、船は無事出て行くのである。同じ事務局に居る者は（私！）早くこの時間が過ぎることを祈るような気持ちで、やり過ごす!? これは16年前から変わっていない。…さて船は別荘副副にいけば、5月初めに到着する。いよいよナロジチバイオエネルギーセンターの始動である。（山盛）

新任の会計担当者自己紹介

はじめまして。新しく、「チェルノブイリ救援・中部」事務局でお世話になっていきます。中村いづみと申します。これからいろいろなことを教わりながら、会計の仕事を中心に担当させていただきます。どうぞよろしくお願ひします。現在、会員の皆様の名簿作りやウクライナの「チェルノブイリ・ホステージ基金」への送金などの仕事をしながら、「菜の花プロジェクト」を含むさまざまな救援活動が、たくさんの方々の思いやりで動いているのだということを実感しています。日々、新しい発見があり、先輩方からいつも良い刺激をいただいています。身の周りの経験などから徐々に国内外の社会問題に興味を持つようになり、特にロシア・東欧関係には触れる機会が多く、チェルノブイリもその一つでした。外国のこととなると、どうしても遠い国の話と考えがちですが、チェルノブイリに限らず、他国で起こっていることは他人事ではなく、私たちの笑顔や生活とも無関係ではありません。これから国際協力に関わっていく上で、厳しい環境にいる人々への共感や想像力を大事にしていきたいと思っています。（中村）



編集後記

- ☆春先に張り切って買ったハイヒールで見事な靴ずれをつくってしまった。それから3週間、ようやくかさふたになり、この間のスニーカー生活から脱出。出来たかさふたはいとおしく、大事に育てています。（佳）
- ☆京都での大学院生活が終わり、またダンボールの山。それはいいとして、世のリタイアする団塊の世代の流れに逆行して、只今就職活動中。人生の第何幕目かがスタートする春。（京）
- ☆三寒四温で、体調が今一。それに、あちこちがコリコリなの。運動不足？ はい、立ってるだけじゃ運動にならないって、ちゃんと知ってますよ。仕事の合間に運動って難しいよね。どうしてるの皆さん？（美）
- ☆3年間過ごした「いわき」に別れを告げ、「名古屋」に戻る事となった。ようやく、腰を落ち着けて「菜の花PJ」に打ち込む事ができそう。もちろん、「911」にも。早速、「911 ボーイングを探せ」「911の嘘をくすせ」等の「DVD上映会」を計画中。そこで、熱く語り合ひましょう。（J）

〒456-0022 名古屋市中村区波奇町 20-14
印刷「エープリント」
TEL・FAX (052) 871-9473